

令和6年4月1日施行

令和6年3月28日

事務局長決定

公益財団法人東京都スポーツ協会主催大会運営に係る危機管理マニュアル

1 目的

本マニュアルは、公益財団法人東京都スポーツ協会（以下「本協会」という。）が主催する大会等（以下「大会」という。）において事故の防止対策、及び万が一の事故等が発生した場合を想定して、事前対策、発生時の応急対策、それに引き続く事後対策について規定するものとする。

2 対策

(1) 事前対策

本協会は、毎年適切な時期に、本協会加盟団体（以下「団体」という。）に対し、危機管理体制の周知徹底を図る。大会を主管する団体は、万が一事故が発生した場合を想定し、大会会場周辺のAEDの設置個所を確認するとともに会場周辺の救急病院を掌握しておくこと。必要に応じて、医師及び看護師等を配置するものとする。その他必要に応じて、保険の加入及び事前に大会会場の近隣の医療機関に対応依頼等を行い、調整しておくこと。

また、大会等当日の会場準備については、器材などが風にあおられて倒れたり、飛ばされたりすること等がないよう事故防止には万全を期すとともに、特に下記の事項について事前によく調べておき、対応策を決定しておくこと。

- ① 当日の天気予報（特に大雨や雷雲などについて）
- ② 避難場所・誘導経路の確認（観客を含む）
- ③ 活動中止の決定、連絡フローの決定
- ④ 熱中症予防のためのWBGT（湿球黒球温度）の測定計の用意
- ⑤ AED設置箇所の確認
- ⑥ 地震や天気予報等の速報を聞くことができるラジオ等の用意

(2) 応急対策

- ① 事故等が発生した場合、主管する団体が中心となり応急手当を実施する。さらに、けがの状況を判断し、状況に応じて119番通報等（救急病院搬送の手配）を行うとともに、本協会へけが人の氏名、状況等を連絡する。
- ② 本協会は、状況を把握するとともに、大会等主管団体と連携を取り円滑な対応ができるようにする。

(3) 事後対策

- ① 大会等主管団体は、事故報告書を作成の上、本協会へ送付する。

なお、様式については、【参考様式】を基に大会の内容に応じた様式を作成すること。

- ② 本協会は、状況を把握するとともに、大会主管団体とともに、誠意をもって事後処理にあたる。本協会もしくは主管団体等において、保険金請求手続きがある場合は速やかに保険会社と連絡調整する。

3 警報発令時の対応について

- (1) 実施日の前日もしくは当日、あらかじめ設定した時点で（当該地区限定の気象情報にて）大雨、洪水、暴風、いずれかの警報が発令されている場合、大会等は中止とする。
- (2) 大会等実施中に警報が発令された場合、屋外競技については参加者を最寄りの安全な場所に避難誘導し、警報が解除されるまで安全確保に努める。屋内競技については、参加者が施設から出ないように対応し、警報が解除されるまで参加者の安全確保に努める。

4 雷への対応について

屋外種目については、事前に気象情報等を確認するなど、雷の発生に細心の注意を払い、落雷事故防止に万全を期すこと。

『落雷防止対策マニュアルについて』

1. 行動の流れ

- ① 雷の察知（雷光・雷鳴）
- ② 雷の監視（雷光＋雷鳴） ★参考 目視から聴音 10 秒 3.5 km
- ③ 避難行動（参加者を安全な場所へ避難誘導）



☆入道雲が発達した時や頭上に厚い雲が広がったら、速やかに避難する。
☆入道雲、雷鳴及び雷警報器等から察知、判断し避難行動の対応をする。

《試合を「停止」「中止」》

- ④ 試合「再開」あるいは「中止」

「試合再開」

- 判断基準→(1)雷鳴・雷光がなくなって 30 分経過
(2)気象庁等関係機関に確認をする

「試合中止」

- 判断基準→(1)30 分経過後も間断なく雷光、雷光が続いている場合
→(2)「再開」が可能であっても日没などで試合続行が不能時
→(3)グラウンド、コート等がプレー不可能な状況の時

★再開基準については、日本サッカー協会では雷鳴・雷光がなくなって 20 分としている

が、安全を期すため 30 分程度とする。

《その他》

- ★携帯型雷警報器「ストライクアラート R.2.3」を落雷事故防止補助機として対応する
 文献 『雷から身を守るには～安全対策 Q&A～改訂版』（日本大気電気学会編、平成
 13 年度発行）別紙＜落雷の予兆＞に関する参考資料参照

5 熱中症への対応について

『熱中症事故等の防止について』

- (1) 熱中症は、未然に防止できることや、大会参加者の健康や生命に甚大な影響を与えることを、本協会及び主管団体が十分に認識した上で大会運営に当たること。
- (2) 大会等参加者に自己の健康管理に十分留意するよう繰り返し注意喚起すること。
- (3) 高温時に大会等を実施する場合においては、(公財)日本スポーツ協会が発行する「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」及び「競技者のための暑熱対策ガイドブック」の最新情報を十分理解し、必要に応じて試合数・内容・時間・場所等を変更するなど柔軟に対応するとともに、水分補給や休憩を励行し、適切に暑熱対策を講じること。

★熱中症予防運動指針

WBGT (°C)	湿球温 (°C)	乾球温 (°C)	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子供の場合は中止すべき
31	27	35	嚴重注意	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分を補給する。暑さに弱い人※は運動の軽減または中止。 運動する場合は積極的に休憩をとり、水分補給を行う。
28	24	31	警戒	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
25	21	28	注意	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
21	18	24	ほぼ安全	通常は熱中症の危険が少ないが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどでは、この条件でも熱中症が発生するので注意する。

- 1) 環境条件の評価には WBGT (暑さ指数とも言われる) の使用が望ましい。
- 2) 乾球温度を用いる場合には、湿度に注意する。

湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指数を適用する。

3) 熱中症の発症のリスクは個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。

運動指針は平均的な目安であり、スポーツ現場では個人差や競技特性に配慮する。

※WBGT（湿球黒球温度）の算出方法

屋外で日射のある場合

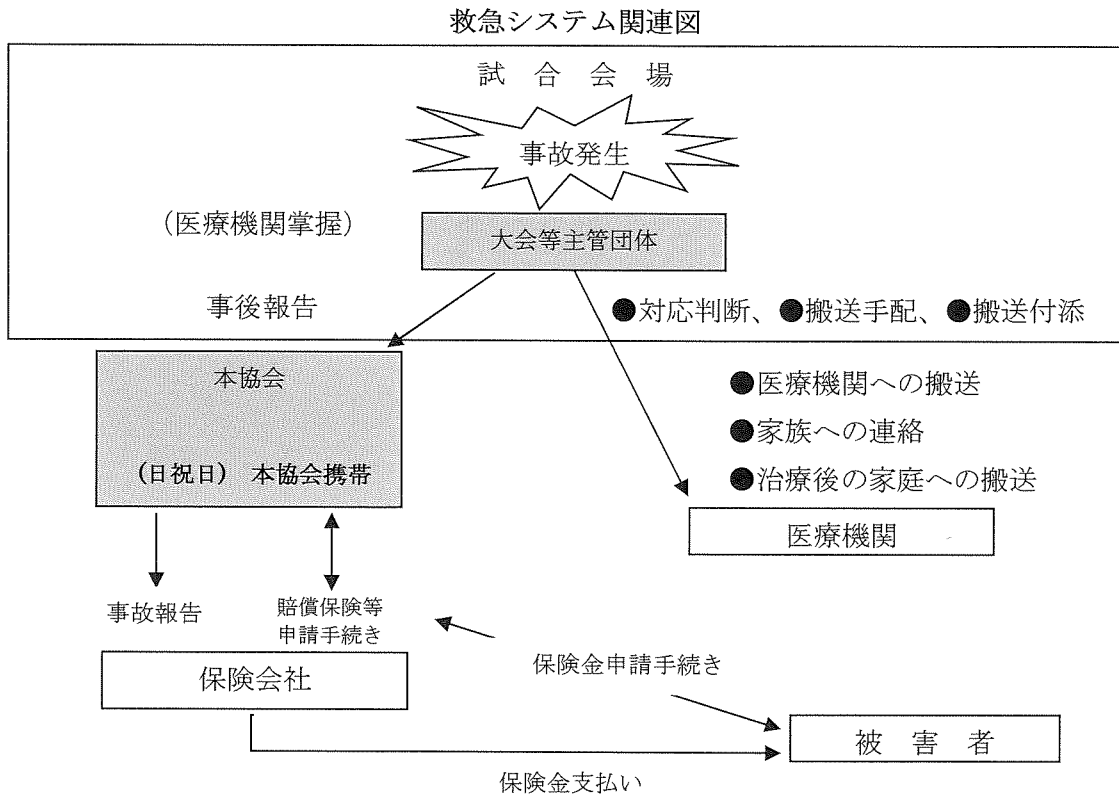
$$WBGT = 0.7 \times \text{湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} + 0.1 \times \text{乾球温度}$$

屋内で日射のない場合

$$WBGT = 0.7 \times \text{湿球温度} + 0.3 \times \text{黒球温度}$$

※WBGT 近似値を測定して熱中症危険度を表示する「携帯型熱中症計」等の使用を考慮すること。

出典「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（公財）日本スポーツ協会



6 その他

- (1) 本協会加盟団体が主催等する大会については、このマニュアルを基準として、危機管理マニュアルを作成し、実施するものとする。
- (2) 休日に実施される大会の場合の連絡先は、別途主管団体に本協会の携帯番号をお知らせする。

事故報告書

次の通り事故がありましたので、報告いたします。

令和 年 月 日

大会名

報告者氏名

報告者連絡先

事故発生日時 令和 年 月 日 ()

午前・午後 時 分 頃

事故の場所

事故の概要 (1) 被害者住所

フリガナ

氏名

性別 男・女 年齢 歳

電話番号

(2) 所属 地区・団体名

所属責任者氏名

電話番号

(3) 症状 状

(4) 事故発生状況

処置の概要 (1) 応急処置

(2) 通院・入院先 病院名

電話番号

(3) 通院・入院後の処置

傷害保険の加入 有 (保険) ・ 無

〈落雷の予兆〉に関する参考資料

文献『雷から身を守るには一安全対策Q&A一改訂版』（日本大気電気学会編、平成13年発行）には、落雷被害を避けるための予知方法について次のように記述されている。以下抜粋して掲載する。

「どのような方法でも発生・接近の正確な予測は困難ですから、早めに安全な場所(建物、自動車、バス、電車などの内部。)へ避難することです。

モクモクと発達した一群の入道雲は落雷の危険信号です。厚い黒雲が頭上に広がったら、雷雲がさらに近づいたと考えて下さい。雷雲が近づくときは、多くの場合は突風が吹くとともに気温が下がり、やがて激しい雨になります。しかし、突風や降雨より落雷が先に起こることがありますので、早めの避難が大切です。」

「雷鳴はかすかでも危険信号です。雷鳴が聞こえるときは、その後の雷が自分に落ちてくる危険がありますから、すぐに安全な場所に避難して下さい。雷鳴が聞こえなくて雨も降っていないときに、突然落雷が発生する場合がありますので、雷鳴だけで雷の発生や接近を判断するのは危険です。

もっと遠いところの雷の発生は、ラジオで中波や短波のAM放送を受信していると、ガリッガリッという雑音が入ることにより、検知できます。雑音の間隔が短くなり、激しく連続的になるときは、雷がさらに接近してくるときです。このときはラジオの雑音だけでなく、雷鳴にも注意して下さい。雷鳴が聞こえてくれば、雷雲はすでに危険な範囲に入っています。」

「雷雲が遠ざかって雷鳴が聞こえなくなっても、20分くらいはまだその雷雲から落雷の危険がありますから、安全な場所で待機することが必要です。また、一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づいてくる場合がありますので、新しい雷雲の接近に常に注意することが必要です。」

「自動車、バス、列車、鉄筋コンクリート建築の内部は安全です。」「本格的な木造建築の内部も普通の落雷に対しては安全です。しかし、テントやトタン屋根の仮小屋の中は、屋外と同様に雷の被害を受ける危険があります。」

「絶えず雷鳴に注意し、空模様を見守ります。雷鳴がきこえたり雷雲が近づく様子があるときは、直ちに近くの建物、自動車、バスの中に入り、安全な空間に避難します。雷鳴は、遠くかすかに聞こえる場合でも、自分に落雷する危険信号と考えて、直ちに避難して下さい。雷活動が止んで20分以上経過してから、屋外に出ます。

屋根のない観客席も危険ですから、安全な場所に避難します。」

以上